
 学 界 ニ ュ ー ス

おしらせ

柏原正樹氏・河合隆裕氏朝日賞を受賞

柏原正樹氏(京都大学数理解析研究所教授)と河合隆裕氏(同助教授)は‘代数学解析の研究’により昭和62年度朝日賞を受賞され、昭和63年1月29日に贈呈式が行われました。

シンポジウム・研究集会の一覧表について

理事会では、各年度のシンポジウム・研究集会の一覧表を作ることを、1984年度から実施し、‘数学’の各巻4号に掲載しております。

年度ごとに開催された関係のシンポジウムや研究集会に関する情報は支部・分科会連絡責任評議員、科学研究費総合(A)代表者のもとでとりまとめて頂き、所定の用紙に記入の上、数学会宛に、5月末日までに送って頂くようになっております。

該当するシンポジウム・研究集会記録は、原則として20名以上の集会、又は(20人以下でも)報告集のある集会に限ります。

なお、該当するシンポジウム・研究集会を開催された方は、上記関係者にご協力下さいますようお願いいたします。(理事会)

ICM90のシンボルマークができました

ICM90のシンボルマークを公募しましたところ、169人の方が全部で232点の作品を応募して下さいました。グラフィックデザイナーの意見も参考にして、広報委員会で慎重に数度の審議をした結果、

青木一芳氏(中央大学理工学部)の作品を入選とし、また佳作5点を決定しました。

入選の作品は、‘京’という文字を石灯廊ふうデザインしたものです。‘京’は、会議開催地の地名であるとうじに、10の16乗を表す数字でもあり、これは計算機と関係の深い数でもあります。

また、グラフィックデザイナーの駒井佑二氏に依頼して、最終的なデザインに仕上げました。

入選 青木一芳 東京

佳作 三重野羊一 東京

鈴木恵美子 愛知

林 正敏 神奈川

川村亮二 岩手

古田陽子 千葉

佳作の方には、賞品として最新の数学書をお送りしました。

1987年9月



ICM90 広報委員会 飯高 茂, 森本光生

ICM90について

第21回国際数学会議が1990年に京都で開かれます。国際数学会議(International Congress of Mathematicians 略称 ICM)は国際数学連合(IMU)が4年毎に開催する数学における最も規模の大きく最も重要な国際会議です。第20回大会は米国パークレーで開催され、そこで日本開催が正式に決定、報告されました。

会議の冒頭でFields賞とNevanlinna賞が授与され、授賞理由が報告されます。さらに全数学の分野にわたり全体講演、分科会講演、一般講演、セミナー等が開かれます。

1. 会議の名称

第21回国際数学会議
(International Congress of Mathematicians 1990)

略称 ICM90

2. 主催

日本学術会議(希望),
(社)日本数学会, 他
(開催母体学術団体 国際数学連合)

3. 開催時期と場所

1990年8月21日—29日

国立京都国際会館(京都市左京区宝池)

(国際数学連合総会 1990年8月18日—20日神戸国際会議場にて)

4. 参加予定者数

ICM90

国外 約1500名(他 同伴 500名)

国内 約2000名(他 同伴 500名)

計 約3500名(他 同伴 1000名)

IMU 総会

国外 125名(他 同伴 50名)

国内 6名(他 同伴 4名)

計 131名(他 同伴 54名)

5. 参加国 約84か国(地域を含む)

本会議の開催に当りその準備・運営に要する経費として約三億一千万円が必要と推算されます。

ICM90組織委員会等の組織構成図
ICM90 運営委員会

(1987年11月14日の運営委員会において、幹事会が実行委員会に、旧来の実行委員会が地区委員会に名称変更されることが決定されました。)

会長 小平邦彦

副会長 伊藤 清, 広中平祐
 委員長 小松彦三郎
 幹事 荒木不二洋
 会計 戸田 宏
 実行委員会委員 飯高 茂, 永田雅宜, 溝畑
 茂他に 28 委員.

ICM90 運営委員会小委員会

募金委員会委員長 伊藤 清
 副委員長 木村俊房
 学術委員会委員長 溝畑 茂
 財務委員会委員長 田村一郎
 渉外委員会委員長 村上信吾
 広報委員会委員長 飯高 茂
 出版委員会委員長 佐武一郎
 地区委員会委員長 永田雅宜
 会場委員会委員長 戸田 宏
 行事委員会委員長 柏原正樹
 宿泊・輸送委員会委員長 渡辺信三
 登録・事務委員会委員長 島田信夫
 通信・印刷委員会

ICM90 事務局

〒606 京都市左京区北白川追分町
 京都大学数理解析研究所 国際交流室
 電話 075-751-2111 (内線 7257)

集会記録

数値解析シンポジウム

1987年6月11日(木)より13日(土)まで軽井沢の日本大学研修所において、標記の第16回目のシンポジウム(代表者:平野菅保)が開かれた。1日目,2日目の夜にはそれぞれ懇親会が催された。参加者は109名であった。プログラムは下記のとおりである。

1. 古屋三代司(チッソエンジニアリング株式会社): 熱伝導方程式の特殊な境界値問題に関する解析的解法の一例。
2. 野中善政(宮崎大), 村島定行(鹿児島大): 対数一次要素を用いた対流計算について。
3. 須賀伸介(国立公害研): 球を過ぎる高レイノルズ数の流れの数値計算に現れる連立一次方程式に対する反復解法。
4. 佐伯英夫, 植松滋幸, 井出俊之(三菱電機), 下地貞夫(東京工科大), 安田英典(三菱総研): スピンコーディングのシミュレーション。
5. 菊地文雄(東大教養): 電磁波の固有値問題に対する軸対称有限要素コードの開発。
6. 佐川暢俊(日立製作所): DEQSOL 陰解法機能の

高度化。

7. 高橋俊彦(鹿島建設), 矢部 博(東京理大): 非線形最小二乗問題に対する分解型準ニュートン法について。
 8. 宮田雅智(青山学院女子短大): 本郷 茂(専修大), 高橋 悟, 矢部 博(東京理大), 八巻直一(システム計画研究所): ASNPO: 非線形最適化問題のためのアプリケーションシステム。
 9. 小藤俊幸, 鈴木千里(富士通国際研): 最急降下法とカオス。
 10. 山下 浩, 荒川貴道(数理システム): 線形計画問題の新しい解法について。
 11. 松野年宏(ファコム・ハイタック): 科学技術計算プログラム開発支援環境 'Professor'。
 12. 渡辺成良(群馬大工): ダイアコプロティックスによる線形連立方程式の並列計算。
 13. 池辺八洲彦, 稲垣敏之, 宮本定明(筑波大電子・情報工学系): 古典行列論からのトピックス 2 題固有値問題と行列関数。
 14. 一松 信(京大): Hilbert 行列の Choleski 分解。
 15. 村田健郎(図書館情報大): ラグランジュ乗数法によらない——回帰主成分分析・正準相関分析の基礎方程式の導出と数値計算法。
 16. 春日里美, 村田健郎(図書館情報大): 正準相関分析の誤差。
 17. 渡部 弘(日本電気): 新しいグスタフソン流の修正を用いた ILU 分解。
 18. 田中正次, 山下 茂(山梨大工): Runge-Kutta法に関する話題。
 19. 杉浦 洋, 桜井鉄也(名大工): 適応型自動積分に用いる基本積分公式について。
 20. 小沢一文(仙台電波工専): 非負係数を持つある種の子測子・修正子法とその絶対安定。
 21. 篠原能材(徳島大工): 常微分方程式の初期値問題の数値計算に関する一つの注意。
 22. 鈴木千里(富士通国際研): 虫喰いデータに対する補間多項式。
 23. 田辺國士, 土谷 隆(統数研): 非線形方程式系の大域的収束性を改良する Centered Newton 法の数値的挙動を調べる。
 24. 長田直樹(長崎総合科学大): 収束の遅い級数の漸近展開と加速法。
 25. 二宮市三(中部大): 平方根とその逆数。
- なお, 来年度のシンポジウムについてのお問い合わせは 〒160 東京都新宿区大久保 3-4-1
 早稲田大学理工学部数学科
 中島勝也, 室谷義昭(TEL 03-209-3211)
 (内田正則記)